

健康登山17:周辺の山10(本宮ノ峰・高塚山・千頭岳)

コース	醍醐駅 1.4km/22 醍醐寺 2.7km/86 上醍醐開山堂 1.2km/33 本宮ノ峰 1.2km/32 開山堂 0.7km/16 横嶺峠 1.5km/34 高塚山 3.0km/67 西千 頭岳 0.6km/14 千頭岳 1.4km/35 大平山 2.2km/56 団地口バス停		
水平距離	15.9km	断面図 縦軸: 高度m 横軸: 距離km	
水平換算距離	19.7km		
累計高低差	登り1226m、下り1144m		
標準歩行時間	6:35		
実績歩行時間	7:00		



山行報告

山行日 2006・10・12(木) 天候 曇のち晴 参加者 8名

醍醐駅8:00 醍醐寺8:42 開山堂10:26 東の覗き10:55 本宮ノ峰11:08 開山堂  
行動 11:45~12:15 横嶺峠12:34 高塚山13:08 ゴルフ場13:50 西千頭岳14:20 千頭  
岳14:40 大平山15:25 団地口バス停16:22 石山駅16:36

記録

自然歩道 西大津～音羽山～石山寺の周辺の山として醍醐寺から石山まで歩いた。  
三角点のある山は醍醐の本宮ノ峰476.1m、高塚山485.2m、西千頭岳602.0mの三山で、千頭岳  
と大平山を含むと五山を歩いたことになる。  
午前中は曇り空で蒸し暑かったが、午後は晴れ間も出て快適な山歩きが楽しめた。  
醍醐駅に集まったグループと三宝院前で合流しストレッチをした後出発した。上醍醐の参道で  
はお参りを終えて下山される方々と挨拶を交わしながら登った。開山堂から回峰道に入り、そ  
の南端から南に伸びる尾根にある本宮ノ峰へ向った。途中にある東の覗きから千頭岳などが見  
える筈だがガスで何も見えなかった。本宮ノ峰からの帰路は往路を戻った。  
開山堂の展望所で昼食をし、横嶺峠を経て京都国際CCへ通じる車道を歩き二番目の三角点高塚  
山へ向った。高塚山も本宮ノ峰と同様尾根上のコブだがHRさんの説明では麓からはきれいな山  
に見えるとのこと。  
再び車道に戻り、ゴルフ場の左端を通らせてもらいテープの巻かれた沢筋から鉄塔のある西千  
頭岳に登った。三角点は鉄塔を囲うフェンスの北側にあった。ここから尾根伝いで千頭岳に  
登ったが山頂を示すものは何もなかった。しかし東海自然歩道の道標があり石山寺7.8km、岩  
間寺5.5kmと記され東尾根にある大平山まで通じている。  
私たちも府県境稜線である東尾根を辿り大平山まで行き、そこからさらに東へ進み石山団地へ  
下山した。大平山からの下山道は少し荒れていて日没後では歩きにくいと思った。とくに石山  
側から登る場合は登山口にするしがなく極めて分りにくい。  
途中随所で枝道がたくさんあった、機会があれば探索したいと思った。

周辺の山 (本宮ノ峰・高塚山・西千頭岳)



醍醐寺山門  
8:21



上醍醐の登り  
9:42



開山堂展望台  
10:26



東の覗き  
10:55



本宮ノ峰  
11:07



高塚山  
13:07



千頭岳へ向う  
13:20



西千頭岳にて  
14:21



千頭岳の登り  
14:37



大平山にて  
15:22

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：醍醐寺～本宮ノ峰・高塚山・千頭岳～石山）

**醍醐寺**：真言宗醍醐寺派総本山、理源大師<sup>しやうほう</sup>聖宝（修験道中興の祖）が深草の普明寺<sup>ふみょう</sup>で7日間祈祷し、五色にたなびく雲に導かれて笠取山（醍醐山）に登り、水辺で休んでいると、地主神の横尾明神<sup>よこお</sup>が老翁として現れ、水を飲んで「醍醐味なるかな」といい、聖宝もまた水を飲み「醍醐の妙味」と賞したのが醍醐の名の始まり。

**聖宝**<sup>しやうほう</sup>：天智天皇の皇子、施基皇子<sup>しきのみこ</sup>の御子春日親王から4世の孫である葛声王<sup>くすなおう</sup>の子として生まれた。幼名は恒蔭王<sup>つねかげおう</sup>6歳のとき出家する。東寺と西寺の別当、東大寺別当、七大寺検校などの要職を歴任する。延喜9年（909）聖宝は病のため深草の普明寺で養生し、病床についている間には宇多法王、醍醐天皇をはじめ多くの公卿が歩を運んで病状を見舞ったという。同年7月6日78歳で自叙。（803～909）

**醍醐味**：労働で汗をかいたあとの一杯のビールの味。六波羅密教に「醍醐の味は乳酪蘇中の微妙第一にしてよく諸病を除き、諸々の有情をして身心安楽ならしむ」と説く。醍醐味はチーズの味、人生の妙味は味わっても味わいつくせない微妙なもの、これが醍醐味で仏教の教えを心の糧にして醍醐ともいう。  
[京、伏見歴史の旅より]

**醍醐槍山**<sup>やりやま</sup>：足利善政や豊臣秀吉が観桜の宴をしたところ

**准胝観音堂**<sup>じゆんてい</sup>：西国11番の霊場、昭和43年の建築だが、創建は醍醐山でもっとも古い由緒をもつ。聖宝が醍醐水のそばに立っている柏<sup>かしわ</sup>の木で2体の観音像を刻み准胝堂と如意輪堂に安置したという。准胝観音は求児、安産の霊尊として信仰が厚く、皇后穩子に皇子がいなかった醍醐天皇はこの霊尊に求児の祈祷を修せられたところ、たちまち靈験があらわれて朱雀、村上の両天皇がお生まれになったという。

**准胝**：非常にたくさんの仏という意味、たくさんの仏を生み出す観音が准胝観音

**醍醐寺五重塔**：創建当初のままの建物、醍醐天皇皇后穩子の発願で天曆5年（951）朱雀、村上両天皇が15年の歳月をもって完成した。塔の特徴は九輪の長さが塔の全長の3分の1もあるのでバランスをとるため五層の各屋根と屋根の間隔が狭く軒線が長いことである。つまり平行志向の美しい代表的な建築といえる。（市内現存最古で国宝）

本宮ノ峰：標高 476.1m 三等三角点（点名：堂ヶ背）

上醍醐開山堂起点の奥院行場めぐりがある、東の覗き行場の岩は高さ 20 ㍍位あり岩上から千頭岳や西笠取地区の田や車道が見える。

高塚山：485.2m 三等三角点。塚とは土を高く盛って築いた墓または、物の標<sup>しるべ</sup>の意から小さな丘や丸山を指すようになりドーム型の山を丸山、飯盛山、高塚と名付けてきたらしい。山科の高塚山も醍醐方面から眺めると整ったドーム状に見える。

千頭岳：（地形図の記名は 600 ㍍峰）（二等三角点 602 ㍍峰は無名）の双耳峰。西笠取<sup>あいつき</sup>相月側では「せんずだけ」醍醐<sup>たらたに</sup>陀羅谷側では「せんとうがだけ」と呼ばれている。東峰は西峰より低いが山容が美しく立派に見える、地元でも一般に東峰を千頭岳と呼ぶ。

千頭嶽の伝説：千頭嶽に大蛇が棲んでいるという伝説。

醍醐寺開創の理源大師聖宝がある日、書見をしていたが夜が更けて眠気を催したので茶一盞<sup>せん</sup>喫しようと茶盞<sup>ちやせん</sup>を取り上げたところ、梁にまたがる大蛇の影が盞<sup>せん</sup>中の茶に映っていたのである。聖宝は手で大蛇を追いあおぎながら、千頭嶽に封じ込められるように祈ったところ、たちまち大蛇は千頭嶽方面へ去っていったという。

経塚山：490m

千頭岳の南に位置し相月、久世谷あいだにあるムネの峠が登り口送電線順視路を辿れば頂上まで 30 分程度。悪病が流行ったとき、相月の町内を守るため山の頂上で護摩を焚いて悪病をくいとめたことから経塚山と呼ぶようになった。

山頂の展望はないが頂上直下の鉄塔からの見晴らしはよく、喜撰山、大峰山、鷲峰山、猪背山、矢筈ヶ岳、笹間ヶ岳、太神山、金勝山、竜王山、阿星山、綿向山、鶏冠山、千頭岳などが一望できる。